

島根県立出雲工業高等学校 令和8年度 人権教育全体計画

学校教育目標

人格の完成をめざし、国家及び社会の形成者としての必要な資質を養うとともに、工業に必要な基礎的・基本的知識、技術、技能を身につけさせる。

人権教育推進上の目標

自己とともに他者を尊重し、他者によりよく生きる態度を養う。

具体的目標・方策

① 生徒一人一人の学びの保障

- スタートカリキュラムの充実
 - ・オープンスクール、学校説明会の実施（教務、各科）
 - ・中高連絡会等中学校との連携（教務、担任、保健教育相談）
- 知識や技術の修得を目指す学習指導
 - ・教育目標・めざす生徒像に基づく授業実践（全教員）
 - ・資格取得のための個別指導（各科）
 - ・授業評価アンケートの実施（教務、授業担当者）
- 就学支援制度等の周知
 - ・各種奨学金や相談窓口の案内（総務、担任）
 - ・諸会費納入の対応（事務）
- 特別な支援を要する生徒への配慮
 - ・教員研修の実施（保健教育相談、図書情報）
 - ・個に応じた支援の提供（保健教育相談、担任、教科担当）
- 進路実現のための取り組み
 - ・放課後、夏季休業中の補習（進路指導、教科担当者）
 - ・進路情報の提供（進路指導、各科、担任）
 - ・差別選考をなくすための取り組み（進路指導、担任、図書情報）

② 人権が尊重される環境づくり

- 安全で安心な学校
 - ・授業中のルール徹底（担任、教務、生徒指導、授業担当者）
 - ・お互いを認め合う雰囲気づくり（担任、各科、生徒指導、寮務、図書情報）
 - ・個人情報の保護（総務、教務、全教員）
- 教育相談活動の充実
 - ・悩みを相談しやすい体制（担任、保健教育相談）
 - ・SCやSSWとの連携（担任、保健教育相談）
- 特別な支援を要する生徒への配慮
 - ・個に応じた支援の提供（全教員）

生徒に身に付けさせたい資質・能力

③ 人権に関する知的理解と人権感覚の育成

	人権に関する知的理解	人権感覚	
	知識的側面	価値的・態度的側面	技能的側面
一学年	誰にも個人の尊厳があり、価値ある存在として尊重されねばならないことを認識する。	自他の異なる価値を尊重し、多様性を認め合う行動や態度をとることが、お互いを高め合うことに気づく。	他者との関わりを通じて、自尊感情を育むとともに、相互の立場や考え方の違いを受容する。
二学年	個の尊重をふまえ、身の回りにある課題に気づき、その背景やメカニズムを理解する。	自己形成を深慮すると同時に、身近なコミュニティにおける正義や平等の実現を支持・支援しようとする。	他者との望ましいコミュニケーションの取り方を身につけ、身近にある課題を民主的・平和的に解決する。
三学年	自己理解を深めるとともに、人権問題の現状を知り、その解決に必要な知識を得る。	社会の形成者として他者によりよく生きる生き方や、自己実現に向けた姿勢を身につける。	様々な立場に立って考える広い視野を持ち、多くの情報や考え方の中から、公平な解決策や結論を導き出す。

機械科	ものづくりを通してユニバーサルデザインについて理解する。 作業の準備片付けを通して責任、協働、ルールについて理解する。 作業する上で服装などルールを守り全体の安全を意識する。 スピーチを行うため情報を集める力をつける。	お互いの得意・不得意な能力を認め協働できる。 ものづくりの考えやアイデアをお互いに尊重できる。 1 分間スピーチを通して自己の分析と社会への関わりを考察できる。	教え合うことでコミュニケーション能力を発展させる。 性別に関係なく技術を身につける。 情報発信を適切に行える。
建築科	ものづくりを通して、自他ともに安全第一で活動するための知識・技能を習得する。建築の社会的役割を理解し、空間におけるユニバーサルデザインを計画するために必要な知識を得る。	実習や課題研究の協働を通し、他者をおもいやり、尊重できる態度を養う。 社会の一員として必要な態度を養う。	他者への挨拶や声掛けなど、円滑にコミュニケーションを図ることができる。 規則、マナーを守り、自他ともに尊重できる関係や環境を構築することができる。
電気科	ものづくりを通して、人間関係、協働することの大切さを理解する。 インターネットの特性である広域性、高速性、可塑性について理解し、適切に活用していく。	実習や授業の中で班やグループ活動を通して、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を身につける。 電気・通信技術者が社会の中で不可欠であることを自覚し、重要性和責任を理解する。	授業の中で、能動的な傾聴、自己表現などのコミュニケーション技能を身につける。
電子機械科	社会の一員としての役割を理解し、授業・実習におけるルールやマナー、モラルを踏まえて安全かつ協働する意識の育成をめざす。	グループ活動や授業・実習を通して自他を尊重する姿勢を養い、互いの違いを理解し、他者への配慮や安全意識を高めることをめざす。	グループ活動や授業・実習において、適切なコミュニケーション能力を育成するとともに、主体的な発言や協働的な作業を通して自己表現力の向上をめざす。
国語科	教材を通じて、時代の影響を受けて生きる人間像や価値観を理解する。	授業の中で他者の意見や発表を聞き、自分の考えと照らし合わせ、自他の違いがあることを知る。	他者の意見に共感したことを表現し、自分の考えを伝える力をつける。
地歴公民科	自由や平等などの人権や民主主義の発展や現状について理解する。 様々な文化の存在や多様性について理解する。	多様な価値観に触れることで視野を広げ、自らの価値観を形成すると共に、他者の価値観を尊重する。	自立した主体として、よりよい社会の形成に参画するため、現代社会の諸課題を解決しようとする。
数学科	ひとつの答えに至る過程において様々な考え方があることを知り、受け入れられる。さらに、他者と協力することによって得られることを理解する。	ひとつの考え方にこだわらず、様々な解法を考えようとする姿勢を身につける。またそれを他者と共有したり討論したりしようとする姿勢を身につける。	他者の考え方を受け入れたり、自分の考え方を伝えたりする活動を通じて、さらに様々な考え方に触れ、問題解決に活かすことができる。

理科	答えを導く過程において、様々な考え方があることを他者の発表を通して学び、多様性について理解する。	敬意を持って他者の発表を聞くことにより、互いの多様性を認め、自他の価値を尊重しようとする意欲や態度を養う。	人間の尊厳の平等性を踏まえ、他者の意見を傾聴し、自らの意見を発表できるコミュニケーション能力を身につける。
英語科	文化の多様性を理解するとともに自国の文化を理解する。	お互いの多様性を認めあい、自他を尊重する態度を身につける。	他者の意見や考えを尊重しつつ、自分の思いや考えをよりよく表現する方法を考える。
芸術科	音楽作品を通して、作曲家や音楽が作られた背景などの音楽の文化や多様性を理解する。	自他の異なる価値観を尊重し、我が国や諸外国の音楽の多様性を認めようとする態度を養う。	表現活動を通して、自他の表現意図を尊重し、よりよい表現をするためにどうすればよいか考え、試行錯誤する。
家庭科	男女・高齢者・子どもなど様々な人々と共生し、持続可能な社会をつくるための知識を身につける。	社会の一員として、様々な人と協力してよりよい家庭・社会をつくる意欲をもつ。	よりよい家庭や社会をめざして行動することができる。
保健体育科	それぞれのスポーツのルールを理解し、自分や相手の尊厳を守ることを理解する。 心肺蘇生法など他者の生命を守るために必要な知識やその意義について理解する。	生徒が様々な運動課題に対して、性差、能力差をみとめる態度を養う。 自他の生命や価値観を尊重する態度を養い、適切な意思決定や行動選択をすることができるようにする。	他者との相互理解を深め、運動課題の解決に向けてコミュニケーションを取れる。 心肺蘇生法では積極的に救命活動に関わることができるよう、技能を身につける。